[課程―2]

審査の結果の要旨

氏名　　玉井　奈緒

本研究は乳癌癌性創傷における周囲皮膚炎の実態を明らかにするため、乳癌癌性創傷周囲皮膚の状態を記述することにより、滲出液による周囲皮膚炎の形態的特徴を抽出し、さらに身体あるいは生活状況、局所管理等の情報に加えて滲出液成分の解析を試みることで、滲出液による周囲皮膚炎に関連する要因に関して下記の結果を得ている。

1. 乳癌癌性創傷周囲皮膚の形態的特徴の質的記述的分析では、コードが 177 個抽出され、それらを集約し、＜色素沈着＞、＜紫斑＞、＜紅斑＞、＜紫斑を伴う紅斑＞、＜膨隆疹を伴う紅斑＞、＜糜爛を伴う紅斑＞、＜水疱・膿胞・痂皮・糜爛を伴う紅斑＞の 7 個のサブカテゴリーから【種類】というカテゴリーが生成された。＜被覆材に一致した放射形＞、＜被覆材からはみ出る半紡錘形＞、＜テープに一致した線形＞、＜皮下腫瘤一致形＞、＜全身に拡がる不整形＞の 5 個のサブカテゴリーから【形状】というカテゴリーが生成された。＜創から離れたテープに一致した部位＞、＜創辺縁部＞、＜乳房辺縁部＞、＜皮下腫瘤隆起部＞、＜体幹全面：鎧状癌＞の 5 個のサブカテゴリーから【部位】というカテゴリーが生成された。特に乳癌癌性創傷の滲出液による周囲皮膚炎の新たな形態的特徴として、＜創辺縁部＞あるいは＜乳房辺縁部＞にある＜被覆材からはみ出る半紡錘形＞の＜紅斑＞という形態が抽出された。
2. 滲出液による乳癌癌性創傷周囲皮膚炎に関係する要因として、厚みのある黄色壊死組織や黒色壊死組織、滲出液漏れが関係していることが示された。さらに滲出液の量も関係のある傾向があることが明らかとなった。
3. 乳癌癌性創傷における滲出液による周囲皮膚炎と滲出液中に含まれる活性型 MMP-2 及び活性型 MMP-9 の相対値に有意差はなかった。また周囲皮膚炎の有無に関わらず、活性型 MMP-2 の発現は認められなかった。
4. 乳癌癌性創傷周囲皮膚炎と滲出液中に含まれるポリアミンのうち、プトレスシンとカダベリンが関係していることが示された。特にカダベリンは周囲皮膚炎あり群でのみ検出されており、原核生物しか合成できないカダベリンを検出した症例は、カダベリンを検出しなかった症例に比べて黄色壊死組織や黒色壊死組織が創部に厚く付着していることが明らかとなった。またポリアミンの代謝産物であり、細胞毒性の強いアクロレインを一部の患者の滲出液より検出することができた。
5. 周囲皮膚炎あり群では創部より、嫌気性菌や腸内細菌を検出した対象者が多く、周囲皮膚炎なし群は嫌気性菌・腸内細菌は検出されなかった。
6. 周囲皮膚炎と有意な関係を認めなかったものの、乳癌癌性創傷の滲出液及び創周囲皮膚は塩基性に傾いていた。

以上、本論文は乳癌癌性創傷における周囲皮膚の詳細な記述から、周囲皮膚で生じている皮膚炎の形態的特徴を抽出するとともに、ケアへの参加観察や構造化面接に加えて滲出液の成分分析から、滲出液による周囲皮膚炎に関係する要因を明らかにした。本研究はこれまで癌による皮膚の変化と混同され、十分明らかにされてこなかった乳癌癌性創傷の滲出液による周囲皮膚炎の重症化あるいは発生予防における看護ケアの発展に重要な貢献を成すと思われ、学位の授与に値するものと考えられる。